

MSCI新興国株式指数への組入れにより、  
注目高まる中国A株

楽読(ラクヨミ)

5月14日、株価指数を開発・算出するMSCIは、「MSCI新興国株式指数」に新たに組入れる、人民元建ての中国本土株式(中国A株)のリストを公表しました。対象となるのは大型株を中心とする234銘柄で、6月1日に実際の組入れが行なわれる予定です。同指数への中国A株の採用は初めてのことであり、世界の注目が集まっています。

中国A株の採用について、MSCIは2014年から検討を行ってきたものの、海外投資家による中国A株への投資に制限が多いことなどが、従来、採用の足かせとなっていました。しかし、2014年11月に上海・香港間で、2016年12月には深セン・香港間でストック・コネクト(株式の相互取引)が開始されたことで海外投資家の中国A株へのアクセスが向上したことから、2017年6月にMSCI新興国株式指数への中国A株の採用が正式に決定されました。

中国A株のMSCI新興国株式指数への組入れは、6月と9月の2段階で進められる予定であり、6月時点の組入比率は0.39%程度と、当初は限定的な規模となる見通しです。ただし、同指数は、世界の多くの機関投資家がベンチマークに使用しているため、企業年金やETFなどの海外資金が中国A株市場に流入すると見込まれています。MSCIのこれまでの発表によると、今年行なわれる組入れによって中国A株市場に流入するインデックス運用などの資金は約170億米ドルに及ぶとされています。また、こうした資金は中長期的な投資資金になるとみられるほか、現在個人投資家が主体となる中国本土市場において、市場参加者がより多様化、国際化することで、市場の変動性が低下し、株価が経済動向や企業のファンダメンタルズを反映しやすくなるなどの効果も期待することができます。

こうした状況を踏まえ、年初来、海外投資家からのストック・コネクトを経由した中国A株市場への純資金流入が堅調に推移しています。今後、中国の市場開放や規制緩和が進むことで、MSCI新興国株式指数における中国A株の組入比率も徐々に拡大されると見込まれ、市場のさらなる成長が期待されます。

MSCI新興株式指数に組入れ予定の  
中国A株の例

	銘柄名	業種
上海市場	中国工商银行	金融
	中国建设银行	金融
	中国石油天然气(ハプロチャイナ)	エネルギー
	中国農業銀行	金融
深セン市場 メインポート	美的集団(ミデア・グループ)	一般消費財・サービス
	万科企業	不動産
	宜賓五糧液	生活必需品
	珠海格力電器(グリー・エレクトリック)	一般消費財・サービス
中小企業市場 深セン企業板	杭州海康威視数字技術(ハイケビジョン)	情報技術
	江蘇洋河酒廠	生活必需品
	分衆伝媒信息技術	情報技術
	比亞迪(BYD)	一般消費財・サービス

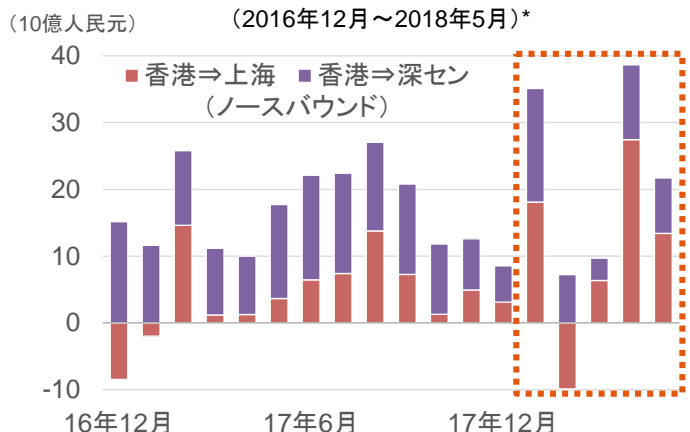
出所:MSCI

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

## 中国本土市場への資金純流出入額

(ストック・コネクトを利用した中国本土・香港間の月次資金フロー)



\*2016年12月の深センの数字は、ストックコネクト開始(12月5日)以降のもの。2018年5月は14日まで。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)